

## 活動テーマ

平成27年度  
エコ・スクール、環境教育  
モデル校活動報告書

## 『生きものがたり～湯田小から～』

### 実践事例について

環境保全のための知識や主体的な考えと実践力を持った子どもを育成するための環境教育プログラムを作成し、実践した。地域の生きもの観察会や琵琶湖の魚を使った伝統食作りなどを通して、子どもたちは生きものに興味を持って調べ、地域の方々と協同した活動を楽しみ、クリーン活動などの地域の環境保全活動に進んで取り組むようになった。

### 1 はじめに

#### (1) 学校の概要

本校は滋賀県北部草野川の中流域に位置する全校児童 548 名の学校である。校区には水田が広がり、平地の森として県下でも珍しいふくらの森が残っている。草野川の伏流水は今でも校区のあちこちで利用されている。水田には、自然の豊かさを象徴する生きものが生息している。

#### (2) 実践の動機

自然の豊かさが残っている地域であるが、多くの児童は関心が薄く、また地域に暮らしているという実感が乏しい。地域の環境保全に主体的に取り組む児童の育成に当たっては、自分たちが暮らす地域の豊かな自然や文化の価値に気づくことが大切であり、そのためのきっかけを作ろうと考えた。地域は教育に関して関心が深く、何事にも協力的である。本校は平成 22 年度よりコミュニティ・スクールの取り組みを進め「地域と共にある学校づくり」の推進に取り組んでいる。

### 2 実践事例

#### (1) 身近な生きもの観察会

学校近くの小川や田んぼ、学校ビオトープ・プール、池で生きもの観察会を行った。地域の方が先生になって、自分の小さい頃の魚つかみの様子を教えてください、実際に魚を捕って説明して下さったりした。国内移入種が生息範囲を広げていることも確かめられた。子どもたちは濁った水がたまっているとしか見ていなかった水泳学習前のプールがさまざまな生きものに利用されていることを知り、採集したヤゴなどの水生昆虫を近くの水路に放した。



#### (2) フナズシ作り

田んぼでの生きもの観察でニゴロブナの稚魚をたくさん見つけた。「田んぼに魚がいるのはどうしてか」という疑問を持って調べ、昔は魚が田んぼにたくさん上がってきて卵を産んでいたことや、田んぼの豊富なプランクトンが魚のえさになることを知った。ゆりかご水田で育ったニゴロブナは中干しの時期に琵琶湖に下り、滋賀の伝統食フナズシの材料になる。「フナズシをみんなで作り食べてみたい」という声が上がったので、地域づくり協議会の皆様のご指導を受けフナズシ作りに挑戦した。魚を触るのも初めての子が多かったが、みな真剣に取り組んでいた。夏から秋の間、校舎の外に樽を置き、乳酸菌の活躍を想像しながら楽しみに待った。フナズシは田んぼで豊富にとれる資源を有効に活用するために昔の人が編み出した保存の技術の結晶である。子どもたちは「待つことの楽しみ」を知り、「昔の人の知恵の素晴らしさ」に気づくことができた。できあがったフナズシは、お世話

になった方々や保護者の方を招いて、交流会を開き、試食をして「おいしい」と好評だった。



### (3) 水草堆肥で草花栽培

夏休みに行ったフローティングスクールで、南湖の様子を水中カメラで観察した。水の中はまるで水草のジャングルで、船の航行に支障が出ることもあると聞いた。藻を刈り取る船「スーパーかいつぶり」の作業も観察し、作業をされている方にお話を聞くことができた。刈り取られた水草は堆肥化され、土壌改良や肥料として使われると聞き、水草堆肥をいただいて学校園や冬の校内を彩る鉢花栽培に利用した。子どもたちは当番制で水やりをしながら、水草堆肥の抜群の保水機能に気づいた。花壇では堆肥のおいをかいたり、貝拾いをして標本作りをしたりした。水辺の地域で昔から普通にやっていた資源を有効に活用する知恵であると気づくことができた。

### (4) 地域のクリーン活動

社会科の水産業の授業では琵琶湖の漁師さんに来ていただいて、40年前と今の琵琶湖の様子をお話しいただいた。琵琶湖は滋賀県の川が運んでくるものを全部受け止めていると聞き、自分たちの地域のゴミが琵琶湖を汚れの原因にも

なっていると気づいた子どもたちは話し合っ、通学路のクリーン活動に取り組んだ。みんなで集めたたくさんのゴミの分だけ、琵琶湖はきれいになっているはずだと考えた。

### (5) 「いただきます」は誰に言う？

フナズシ作りを通して、湖魚の利用について関心を持ち、琵琶湖の魚を使った昔からの料理を調べた。県文化財保護協会の大沼さんにおいしい伝統食を紹介していただいた。石貝のお味噌汁やエビ豆、小あゆの佃煮などが好評であった。大沼さんから、「わたしたちは生きものの命をいただいて生きている」ということを教えていただいた。子どもたちは給食の残滓を減らそうと考え、給食委員会で「あと二口運動」や、ご飯が残るとおにぎりを作って、「いかがですか」と回ることを自主的に始めた。

### (6) 企画展「生きものがたり～湯田小から

11月の学校公開日に、これまで学習したことについて様々なブースを開き、地域の方に紹介する企画展を開いた。琵琶湖の魚料理を紹介する班は、地域の道の駅と連携して、販売活動をした。漁業の紹介をする班は、琵琶湖の漁師さんが少なくなって、漁具も国産では入手困難になっている現状を訴えた。他にも水草のしおりやアクセサリ作りの体験コーナーや、ミニ水族館を開く班もあった。



### (7) 「ゆたかるた大会」を開こう

1年間の学習のまとめとして生きものカルタ「ゆたかるた」を作った。自分の伝えたいことを吟味し17音に表し、絵札を描いた。できあがったカルタは今後全校集会や地域の集まりの機会に、みんなで楽しみながら学び、地域の自然や文化の価値について考える材料としたい。

### 3 まとめ

『生きものがたり』の活動を通じて、子どもたちは地域の自然や文化に関心を持ち、進んで調べて、親しみを感じたり、大事にしたいと考えたりするようになった。

また活動を通じて、みんなで目的に向かって活動する楽しさや、自分たちが地域の方々に支えてもらっていることを知り、自分もまたよりよい地域のために活動したいと考えるようになった。

地域の方はよく「子どもは地域の宝だから」と言われる。これからも地域に愛着を持ち、よりよい未来を築くために行動していける子どもを育てていけるよう取り組んでいきたい。

学校名	長浜市立湯田小学校
住 所	長浜市内保町1051
電話番号	0749-74-0009
E-mail	yuta-sho@zc.ztv.ne.jp